

県立宇部西高等学校の概要

本校は前身の農芸高校を母体とし、普通科、園芸科、造園土木科の併設校時代を経て、平成10年度に山口県内初の総合学科を立ち上げ、本年度末で12周年となる。現在では、伝統を生かしながら多様なニーズに応えるべく、七つの系列を設置し、県内総合学科の中では、特に専門教育に重点をおいたカリキュラムを編成している。

生徒数は、1学年4クラス、定員160名で、男女の構成比率は1：3と女子生徒の比率が高くなっている。

進路は、4年制大学が1割、短大が1割、専門学校が3割、就職が5割となっており、進学と就職が各半数の割合である。また、就職者のほとんどが県内就職となっている。

キャリア教育の効果的な指導内容・指導方法の充実・改善

【取組内容】

1 卒業生アンケート

本校キャリア教育の成果と課題の検証を目的として、平成19年度と20年度に、卒業生を対象とし、右上の項目で、郵送によるアンケートを行った。

アンケート対象の約1割に当たる37名から回答があり、その内容を分析した。

2 キャリア教育に関する教員研修会

平成19年度には、本校キャリア教育の課題の洗い出しと教員のキャリア・カウンセリング技能向上のため、10月と2月の2回、教員研修会を実施した。

第1回目の研修会は、「本校キャリア教育の課題・改善点、そしてこれからの実行アイデア」をテーマとし、専門学校からキャリア・



H19教員研修会

《卒業生アンケート項目一覧》

- 1 高校時代のあなたについて、教えてください。
- 2 現在のあなたについて、教えてください。
- 3 現在のあなたの生活・進路・生き方に大きな影響を与えている体験で、高校時代に体験したものはありますか。「ある」と答えられた方は、次の選択肢から影響を与えたものに○を付けてください。
- 4 1年次「産業社会と人間」の授業は、あなたの職業選択や人生設計に役立ったと思いますか。「思う」と答えの方へ質問します。特に役立ったと思う活動に○を付けてください。（複数可）
- 5 「産業社会と人間」の授業を通して、どのような力が付いたと思いますか。あてはまると思うものすべてに○を付けてください。
- 6 「産業社会と人間」の授業を受けた感想を書いてください。
- 7 3年次「課題研究」は、あなたの職業選択や人生設計に役立ったと思いますか。
- 8 「課題研究」の授業を通して、どのような力が付いたと思いますか。あてはまると思うものすべてに○を付けてください。
- 9 「課題研究」の感想を書いてください。
- 10 普通科や職業学科（工業科・商業科・農業科等）出身の同年代の人たちと、総合学科出身の自分たちを比較して、何か異なったところを発見したことはありませんか？気付いたことがあれば、なんでもかまいませんので書いてください。
- 11 これからの西高に期待することや後輩たちや先生方へメッセージがあれば、書いてください。

カウンセラーや、キャリア・コンサルタントなどの資格を有する講師を招き、ワークショップ形式で実施した。

第2回目は、1年間の成果を報告し、意見交換を元に、年度のまとめと次年度の取組の共有を目的とし、本校で実施しているキャリア教育研究協議会と兼ねる形で、研究協議委員2名、キャリア・カウンセラー1名を加えた拡大協議会として実施した。

平成20年度は、「総合学科のキャリア教育を進める上での諸課題の解決に向けて～科目選択・将来設計・課題研究指導の在り方～」をテーマに、元総合学科高校校長であり、現在は大学教授として活躍されている方を講師として迎え、講演会を実施した。

平成21年度は、上級学校でのキャリア教育への取組や具体的な実践方法及び、産業社会の求める能力・人材を知り、本校が実践しているキャリア教育で育成する諸能力との違いや整合性を見つけ出し、今後の指導内容・指導方法の充実・改善に結びつけることをテ

マに、ハウスメーカー総務課長、キャリア教育や進路指導を担当する大学教授、専門学校からキャリア支援に関する複数の資格を有する講師を招き、講義及びパネルディスカッション形式で研修会を実施した。

3 キャリア教育研究協議会

平成19年度、20年度の2か年にわたり、本校のキャリア教育の指導内容・指導方法について、キャリア教育に理解のある企業関係者、上級学校関係者と意見交換し、改善策を検討するため、商工会議所インターンシップコーディネーター、大学教授の2名を協議委員として招き、本校関係各部の代表者との協議会を、各年度ともに2回、各3時間程度で実施した。

4 総合的な学習の時間の見直し

幅広い社会常識を身に付けるとともに、国語力を高めることにより、卒業研究が一層深まるよう、総合的な学習の時間の見直しを行った。

5 校内組織の再編成

進路指導を担当していた「進路指導部」と、総合学科の主要科目である「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間（未来探求、卒業研究）」の運営及びキャリア教育を担当していた「産業社会と人間部」を統合して「進路指導部」とした。

【成果】

1 卒業生アンケート

統計上の有意性は明らかではないが、回答があった37名分の卒業生の意見を分析した。

その結果、37名中20名が、「産業社会と人間」が職業選択や人生設計に役立ったと回答しており、この科目が生徒の進路選択に大きな影響を与え、キャリア教育における重要な役割を占めていることが分かった。また、本校のキャリア教育で育まれたと考えられる力は「自己分析力」、「進路選択力」、「社会常

識」、「情報収集力」、「自主的に学習する力」という回答が多かった。それに対して、不足していると考えられる力は「意思決定能力」であることが分かり、これからの指導内容を検討するよい手がかりとなった。

他学科の出身者との違いについては、「自分で科目が選択でき、他校では味わえない体験ができた」、「短大進学したため、科目の選択がスムーズにできた」、「自分の好きな科目を選択していたので、嫌々受ける授業が少なく、楽しく授業が受けられた」、「今思うと、色々な体験ができる総合学科は素晴らしい」など、科目選択や様々な科目が学べることについて前向きな意見が多く、総合学科の大きな特徴となっていることが改めて確認できた。

回答者数

卒業年度	男	女	不明	計
平成13年度	2	6	2	10
平成14年度	3	3		6
平成15年度	5	7		12
平成16年度	1	8		9
合計	11	24	2	37

進路選択に影響を与えたもの

	ある	ない	分からない
高校時代の体験	27	5	4
産業社会と人間の授業	20	5	11
課題研究の授業	10	8	19

産業社会と人間・課題研究で育まれたと考えられる力

	産業社会と人間	課題研究
自己分析力	16	
他者を理解する力	4	
コミュニケーション能力	3	3
人の話をきく力	6	4
表現(発表する)力	4	7
情報収集力	8	14
情報活用能力	2	2
課題設定力		8
先見力	4	
進路選択力	11	2
問題解決力		2
主体的に生きる力	3	
行動力	2	4
社会常識	9	2
忍耐力	3	6
集中力		3
自主的に学習する力	7	15
判断力	1	

2 キャリア教育に関する教員研修会

平成19年度の第1回の研修では、本校のキャリア教育の問題点として、「科目選択」や「将来設計」が課題として取り上げられ、教員同士の役割分担やチームワークの重要性を示唆

する結果となった。

外部の指導助言者を交えた第2回の研修では、「生徒の成長していく過程が見えない」、

「1年次に作成するライフプランはあまりにも現実的でない」、「生徒のモチベーションを高めるためのよい方法はないか」、「会社勤めの経験がない教員が、民間企業の厳しさを教えようとしても想像の域を出ない。どのように指導していけばよいか」など、生徒に対するキャリア指導の問題点に重点をおいた議論がなされ、外部指導助言者から、いくつかの示唆をいただいた。

平成20年度には総合学科先進校の実践を聞き、意見交換をする中で、科目選択指導や卒業研究指導のヒントを得ることができ、本校教員のキャリア教育に取り組む意欲を喚起させる内容で大変有意義であった。（資料「平成20年度教員研修会講演要旨」を参照）

平成21年度は、各講師からそれぞれの立場での講話をいただいた。ハウスメーカー総務課長からは、新社会人に求めることや、学校への要望などが述べられ、どのような人材の

育成に取り組むべきか、その方向性を探るキーワードが示された。また、大学教授及び専門学校講師からは、それぞれの学校におけるキャリア教育への取組が紹介され、本校におけるキャリア教育の取組と比較することで、今後の取組の参考となった。

また、専門学校からは、組織的なキャリア

平成21年度キャリア教育研修会講話まとめⅠ《企業》

- ・企業ではグループとしての成績が大切であり、グループで成果を出すためには、コミュニケーション能力が不可欠である。
- ・分からないままではすまされない。分からないなら聞く。
- ・職場では元気な挨拶が基本であり、挨拶でみんなが元気になれば、職場が明るくなり、業績も上がる。
- ・情報の収集が必要である（ただし、ネットの情報には偏ったものがあることを自覚する）。
- ・色々な人と広くつきあう（世代を超えたつきあいが必要）。
- ・個人の信用は、会社の信用（利益）に直結している。
- ・「なぜ、なぜ、なぜ分析」のすすめ（なぜを3回繰り返して、深く掘り下げて分析することが大切）。
- ・遅刻は厳禁。朝に強くなり、時間を守ることが大切。
- ・感謝の気持ちを持つこと。
- ・仕事が目的ではなく、仕事を通じて自己の向上をめざすことが目的と認識することが必要である。
- ・健康管理は自己管理。
- ・お金、印鑑の怖さを高校で教えておいてほしい。
- ・最初の仕事は雑用（雑用ですらない人間に仕事を任せられない）。
- ・会社＝組織であり、組織の求める人材が必要。

平成19年度第1回研修会まとめ（抜粋）

- ・1年次の科目選択と3年次の進路決定がうまく連動していない。
- ・「未来探求」が、「産業社会と人間」と「卒業研究」の橋渡しの役目として機能していない。
- ・総合学科では生徒の進路が多方面にわたっており、教員も職業について幅広い知識を身に付ける必要がある。
- ・消極的な科目選択をさせないしくみ作り。
- ・産社部、進路部、学年等で連携して、キャリアガイダンス機能を充実する。
- ・産社の内容を再考してほしい。
- ・基礎学力を向上させる取組が必要。
- ・「産業社会と人間」の時間をうまく活用できていない。

平成19年度第2回研修会指導助言まとめ

- ・担任以外がカウンセリングを実施すれば、より高い効果が得られるのではないか。
- ・夢のようなライフプランもあったが、生徒は実現不可能なことを自覚しているのではないか。
- ・現在の自分はどうなっているのか、自分と向き合う中で、自分を認めさせていくことが大切。
- ・夢にも個人差があるので、目標の設定レベルにも個人差があつてよいのではないか。個別に確認しながら指導していくしかない。
- ・企業を知るには足でかきめぐらさなければならない。
- ・先生方にも一緒にインターンシップをしていただこうかという話もある。
- ・チームワークで子どもを育てることが大切。

平成21年度キャリア教育研修会講話まとめⅡ《大学》

- ・大学の目的は社会で評価を得られる人材を送り出すこと。
- ・3年後期がマイルストーン（大学でのキャリア教育終了の目安、就活が始まるから、ここに向けて計画を立てる）。
- ・進路指導スケジュールの作成が重要である。
- ・自分を知る（性格分析が重要）。
- ・職業を選ぶことは、人生を選ぶこと。
- ・人間関係が大事、自分の気の合わない人ともつきあう。
- ・コミュニケーションとは、自分の持っている知恵と、相手の持っている知恵の交換である。
- ・採用側は人物を十分知らないの、採用への不安がある（能力が分かるまで2～3年かかる）。
- ・不安を取り除いてやる（安心させる）ことが重要である。

平成21年度キャリア教育研修会講話まとめⅢ《専門学校》

- ・社会人基礎力が大切である。
- ・キャリア教育は、個人をみていくことであり、講義をしていくことではない。
- ・全教員がカウンセリングマインドをもった指導を実践する。
- ・キャリアサポーターの養成（教員のキャリア教育をサポートしていく教員）。
- ・教科指導内によるキャリアカウンセリングの事例紹介。（埼玉県立越谷高等学校、京都府立東陵高等学校）
- ・指導教員によるカウンセリングでは、評価する立場と、評価される立場の関係となり、生徒が口を閉ざしてしまうことが多く難しい。「外部の人材」がポイントとなる。

教育への取組と、教職員個々のキャリアマインドを高める取組などが示され、今後の取組体制の確立に大変参考となる内容であった。

質疑応答では、入社試験の面接時の人物像を判断する観点や、教員側から生徒の世界観に入りこんで、指導を展開していく実践など今後の取組の参考となる内容であった。

平成21年度キャリア教育研修会質疑応答内容

質問 面接時、その人物をどのようにして見抜くのですか。

回答 しっかりと事前準備をしてくるので、とても難しい。想定されていないような質問をしたときに、自分なりの意見をずっと言えるかを見ている。

質問 世界観が狭い高校生の視野をどう広げていったらいいのでしょうか。

回答 大人の世界のことを直接生徒に伝えてもなかなか伝わらない。彼らの世界に自分たちが入っていくことが大切なのではないか。たとえば本校では、「Yixi」というソーシャルネットワークを作り、まずはバーチャルな世界で話をしてみている。その中で色々な提言を行っている。グローブを持っていない相手に、ボールを投げても無駄。まずはグローブを持てもらうために、自分から歩み寄っていく必要がある。

質問 高校生に教えておくと、大学に入ってから役に立つようなものはありますか。

回答 自分の意思をしっかり持ってほしい。大学生でも、エッセイを読んでその感想を聞くと積極的に意見を言えるものが少ない。自分の目で見ると、自分の耳で聞く、自分の頭で考える習慣を付けること。頭の訓練のため本を読むこと。「自分で考える」というプロセスを大切にしてほしい。

質問 キャリアマインドを得るためには、どのようなことを意識する必要がありますか。

回答 同じ意見を共有できる仲間を持つことが大切。教員間でお互いの生徒に対する態度や対応を指摘し合うことで、その意識が高まる。

3 キャリア教育研究協議会

平成19年度の第1回協議会では、生徒のキャリア形成のために育成が望まれる力は、「基礎学力」「社会的なマナー」「考える力」であることが示唆された。

第2回協議会では、外部の力を活用して、生徒のキャリア形成を手助けすることの有効性を再確認するとともに、教員間の役割分担やチームワークの重要性が指摘された。

平成20年度研究協議会では、意見交換する中で、キャリア・カウンセリングやインターシップの進め方、産業界との交流の必要性について指導を受けた。

これらの提言を受け、総合的な学習の時間の見直し、校内組織の再編成、キャリア・カ

ウンセリングの見直し、企業、上級学校から講師を招いた教員研修会を実施した。それぞれの詳細は後述する。



研究協議会

4 総合的な学習の時間の見直し

平成18年度入学生の実教育課程の見直しの中に、総合的な学習の時間の見直しが盛り込まれており、研究協議会や教員研修会の提言を受け、従来2単位であった3年次の卒業研究を3単位とし、増加した1単位の中で、幅広い社会常識を身に付けるとともに国語力を高めることにより、研究が一層深まるようにした。このことにより、2年次の未来探求と合わせて、総合的な学習の時間は計4単位となった。



外部講師による面接指導

5 校内組織の再編成

高等学校にとって進路保障は重要な責務であり、そのために高等学校におけるキャリア教育の果たす役割は非常に大きい。そこで、「キャリア教育」と「進路指導」を、一元的に管理、運営していく分掌として、従前の「進路指導部」と「産業社会と人間部」を統合し、新たな「進路指導部」を新設した。

この再編成により、今まで密接なかかわりがありながらも、別々の組織として運営されていた「キャリア教育」と「進路指導」が、より密接な連携をとりながら、実行できる体制が整った。

【課題及び今後の取組】

卒業生アンケートは回収率が低く、実施に当たっては、その方法を十分に検討しなければならない。そして、学校の取組の検証や、問題点の抽出を目的として、一定期間ごとに、他の分

掌も取り込んだ総合的なアンケートの実施が必要である。

教員研修は、現在本校が抱えている問題点や教員が抱えている悩みのあぶり出し、キャリア教育に関するモチベーションの向上、知識や技術の習得に貢献しており、定期的に実施してほしいという意見が多く、今後も実施していきたい。しかし、実施に当たっては、予算の確保など、条件整備が課題である。

研究協議会は、本校キャリア教育の問題点の洗い出しと提言などにより、様々な見直しにつながり平成20年度で終了した。学校内の情報だけに頼りがちな教員にとって、外部からの指摘や提言は貴重であり、今後はPTAや学校関係者評価委員など、既存の組織を活用していくことで、充実、発展させていきたい。

総合的な学習の時間の見直しでは、その実施方法や内容について、改善の余地が残っており、生徒の実態に対応したより効果的なものとなるよう、今後も継続して研究を進めていきたい。

新しい進路指導部では、キャリア教育と進路指導が一元的に展開できる体制が整ったが、依然としてキャリア教育と進路指導を分割した指導となっており、その成果が十分に発揮できていない。今後はより緊密に連携した運営、指導ができるよう、実務的な面での工夫改善に取り組んでいきたい。

キャリア・カウンセラーの活用の在り方

【概要】

1 募集方法及び求める人材像

本校の実情をよく知り、キャリア教育の専門的知識を有する人材として、講演会の講師等で関係の深い、ビジネス系専門学校のカウンセラーに依頼した。

2 校務分掌上の位置付け及び配置場所

平成19年度は「産業社会と人間部」に配置し、面談は普通教室で実施した。平成20年度以降は、分掌の見直しを受け、進路指導部キャリアガイダンス係に配置し、面談は進路学習

室で実施した。

3 活用回数及び活用方法

(1) 平成19年度

年2回(10月と12月)キャリア・カウンセリング週間として、1、2年次生を中心に、将来設計についてカウンセリングの機会を設けた。

(2) 平成20年度

週1回(水曜日)の午後、カウンセラーを進路学習室に配置し、進路に関する



キャリアカウンセリング面談を行った。3年次生は1学期を中心に進路について悩みを抱えている者、2年次生は2学期以降、進路目標にアドバイスの必要な者を中心に面談を行った。

(3) 平成21年度

1学期は前年度と同様に、週1回(水曜日)の午後にカウンセラーを進路学習室に配置し、進路に関する面談を行った。

ただし、前年度までの課題として、利用率の低さが指摘されていたので、3年次生で就職を希望する生徒全員を対象に、1日2名のカウンセラーによって、カウンセリングを実施した。

2学期は、1日1名のカウンセラーを配置し、希望者を対象にカウンセリングを実施した。また、生徒のキャリアに関する意識の高揚及びカウンセラーの有効活用を目的として、カウンセラーによる講演会を、一斉指導形式で授業内に3回実施した。



カウンセラーによる一斉指導

【活用状況】

1 生徒の相談状況

キャリア・カウンセリングの活用状況については、次のとおりである。

キャリアカウンセリング活用状況(延べ人数)

年度	1年	2年	3年	合計
平成19年度	23	24	0	47
平成20年度	6	16	31	53
平成21年度	2	3	97	102
合計	31	43	128	202

2 教員の活用状況

進路指導部・担任は、生徒の成績等の状況を踏まえた上で、進路指導に当たっているが、キャリア・カウンセラーは、生徒の希望や思いに添いながら、やる気を喚起する役割を担っている。相談によって知り得た情報で、担任に知らせておくべきものがある場合は、担任と連携をとり指導するようにしている。

ただし、教員の個人的なカウンセラーの活用は、進路指導部担当者が、情報交換等を行う程度にとどまった。

【成果】

平成19年度は、科目選択や進路希望が未確定の生徒を中心に、担任が推薦する形で実施した。面談を受けるまでは渋々だった生徒も、実施後はカウンセリングの効果を前向きにとらえて感想を書いた生徒がほとんどだった。

平成20年度は、前年度に3年次生の利用がなかったことを受け、1学期を進路決定に悩みをもつ3年次生を中心に、2学期以降1、2年次生を中心に、担任が推薦する形で実施した。進路決定を直前に控えた生徒に対するカウンセリングが中心であり、自分の考えを整理し、進路決定に前向きに取り組んでいくための手助けとなった。

平成21年度では、それまで指摘されていた利用率の低さの解消を目的に、カウンセリングの実施に先立ち、体育館に生徒を集めた一斉指導形式で、カウンセラーによるキャリア・カウンセリングに関するガイダンスを実施した。また、前年までは担任の推薦があったものの、原則は希望者を対象にカウンセリングを実施していたが、本年度は進路決定を間近に控えた3年次生で、就職を希望する生徒全員を対象にカウンセリングを実施した。生徒がネガティブな反応を示すことが心配であったが、おおむね前向きな

とらえ方をしており、専門的知識や技能をもつカウンセラーによるカウンセリングの有効性を改めて確認した。

キャリアカウンセリング生徒感想(H19～H21)

- ・色々悩んでいたことも整理できてよかった。
- ・カウンセリングをして少し前向きになることができた。
- ・一人で悩まず、色々な人の話を聞くべきだと思った。
- ・曖昧だった考えがちゃんと整理された。
- ・視野が広がった。
- ・自分の本当にしたいことに一歩近づけたような気がする。
- ・もっとしっかり両親と相談して話を進めようと思った。
- ・自分の思っていることと違う考えを聞けてとても参考になった。
- ・アドバイスの内容を参考に考えてみようと思った。
- ・最初は相談することがないと思っていたが、今回の相談で少し自分の中で心境の変化があった。

2学期には、全学年の希望者を対象にカウンセリングを実施した。結果は、3年次生は1学期に約半数の生徒がカウンセリングを受けているため、カウンセリングに対する意識が高まっており、面接練習の依頼など、自発的にカウンセラーを活用することができた。一方で、1、2年次生の利用は進まなかった。そこで、カウンセリングに代わるカウンセラーの活用として、1、2年次生に対し「進路の悩みを考える」をテーマに、事前にアンケートで提出した質問に対して、カウンセラーが答えるという形で、カウンセラーによる2回目の講義を実施した。これらの講義では、「キャリア」という言葉を浸透させ、意識させる効果はあった。カウンセリング以外のカウンセラーの活用方法として今後も検討していきたい。

1、2年生アンケート（現在の気持ち） (人数)

進路実現に向けて、具体的な目標を定めて努力している	37
厳しいとはいっても、なんとか就職・進学できると思う	40
きちんと就職・進学できるか不安だ	185
まだあまり将来のことは考えたくない	28

1、2年生アンケート（進路に関する悩み） (人数)

自分が何に向いているかわからない	111
自分の進みたい分野・就きたい職業が思いつかない	60
何から取り組んでよいかわからない	124
就職・進学までの流れがわからない	62
家族と意見が合わない	16
進路について相談できる人がいない、または何をどう相談していいかわからない	32
希望する進路について情報が無い、どうやって調べていいかわからない	37

【課題及び今後の取組】

3年間様々なスタイルで、カウンセリングの実践を試みてきたが、いずれのケースでもカウンセリング後の生徒の感想は、前向きなものが

平成21年度キャリア講話生徒感想

- ・キャリアについて少しは理解できた。
- ・今まで自分が思っていたキャリアと違ったので、講演を聴けてよかった。
- ・キャリアは悩みを相談するだけでなく、進路についても相談できるなんて知らなかった。
- ・キャリアは考えるものでなく実行するものだということが分かった。
- ・進路に対するキャリアの大切さが分かった。

多く、キャリア・カウンセラーによるカウンセリングは、有効な指導方法の一つであり、高い専門的知識と技能をもった外部人材によるカウンセリングは、大変有効な教育方法であることが分かった。

しかし、その実施方法については、カウンセラーの人数とカウンセリングを受ける生徒数とのバランスや、他の授業との関係など、検討の余地が残っている。本校の平成21年度の実践のように、個別カウンセリングという形式だけでなく、集団やクラス、学年単位の指導なども、カウンセラーの有効利用の方法の一つとして、検討していく必要がある。

また、各学校単位での継続実施ということでは、カウンセラーに対する報償費や交通費など、予算的な面においても課題が残る。

将来的には、外部講師に頼らない、教員によるキャリア・カウンセリングの実践も視野に入れていくべきであり、専門学校で取り組まれていたような、組織的なキャリア教育プログラムの開発やキャリアサポーターの養成などを通して、教員個々のカウンセリング能力や技能を高めていくことも重要である。

この成果をもとに、本校においては、今後も継続して、外部人材によるキャリア・カウンセリングの実施及び有効利用の研究、教員個々のキャリア・カウンセリングに対する知識や技術の向上に、積極的に取り組みたいと考えている。

教員アンケートの実施

本校において、この研究協議を締めくくりに当たり、教員アンケートを実施した。

この研究協議を通し、多くの教員がキャリア教育に対する意識が向上したと感じており、高

等学校におけるキャリア教育の取組は重要であると考えていることが分かった。また、キャリア・カウンセリングなどキャリア教育に関するスキルアップが必要であると感じており、今後もこのような職員研修やキャリア・カウンセリングの実践の継続を希望していることが分かった。

問 この取組で教員個々のキャリア教育に関する意識が向上したと思う。



問 高等学校においてキャリア教育への取組は重要であると思う。



問 教員のキャリアカウンセリングに対するスキルアップが必要だと思う。



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ あまり思わない ■ 全く思わない

問 キャリア教育に関する研修会を定期的実施してほしい。



0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 定期的実施すべき ■ 必要に応じて実施すべき
■ あまり必要ない ■ 全く必要ない

まとめと今後に向けた取組

本校では、総合学科の立ち上げから、科目「産業社会と人間」及び、校務分掌「産業社会と人間部」を中心としたキャリア教育を実践するとともに、その教育プログラムの開発に取り組んできた実績があり、それまでの取組の検証及び発展的推進を目的として、今回の研究に取り組んだ。ゼロからキャリア教育の研究に取り組んだ他校とは、別の視点からのアプローチであったと考える。

この研究を通して、本校のキャリア教育に関する様々な問題点が浮かび上がるとともに、その解決に向けての足がかりを得ることができた。

さらに、新たな試みとして、外部人材によるキャリア・カウンセリングに取り組み、キャリア教育の推進に対する効果や利用価値が非常に大きいことが検証できた。

また、本校は、専門教育に重点をおいた七つ

の系列をもち、学校生活や学習活動そのものが、職業観の育成や、新しい価値観の発見につながり、生徒の生きる力を獲得しようとする意欲にもつなげられる教育課程を有している。この教育課程は、他校には決して真似のできない本校の特色でもあり、キャリア教育の推進の基盤となっている。

今後、普通科を含むすべての高校でキャリア教育が展開されていくが、キャリア教育への取組実績や、特色ある教育課程をもつ本校は、キャリア教育のフラッグシップ校を自覚し、更なる指導体制の充実と教員個々のスキルアップ、またより効果的なキャリア・カウンセリングの実施に積極的に取り組んでいきたい。

資料：平成20年度教員研修会講演要旨

(講師 元総合学科高校校長)

《学校改革へ》

筑波大学の附属農業高校として設立、農業科、機械科、家政科、生活科等の専門科の学校として40年経過したが農業科の定員割れ、学力低下、生徒たちの問題行動等の問題が山積しつつは廃校の動きとなる。再起をめざし平成以降学校改革に乗り出す。平成6年から総合学科を設置。

《第1次学校改革時代(平成6年～9年)》

生徒募集に際してはくくり募集の成果によってある程度の入学者のレベルアップがみられた。(定員割れなし・男女比の不均衡なし)総合学科の絞めどころは難しいので成績だけはおろそかにすることのないようにと教師にも指導、4年生を出すのを恐れず1点足りなくても厳密に対処させた。その代わり生徒指導については自主性を尊重。教師・生徒の学校意識を高めさせる目的として教師には総合学科のアピール、研究大会等に欠かさず出席させ、生徒には積極的にコンテストやコンクールに参加させた。つまり教師、生徒ともにやらざるを得ない状況にした。ただし、専門学科的発想からの脱却ができていない中途半端な時期で、専門学科の時代は教師が高度な課題を課すことができたが総合学科時代では生徒主体であるため低レベルなことしかできない、教師の側にも教えたことが教えられないというストレスがたまる…という問題が浮き上がってくる。

《第2次学校改革時代(平成15年～)》

専門学科からの脱却。大学進学できる総合学科をめざす。普通科の進学校ではなく総合学科の特色を生かした進学をめざす。キャリア教育の強化。系列改革。専門教育学科をもっている高校の特色を生かし、総合学科のモデル校をめざし、総合学科でも高レベルで進学をめざす。

本来総合学科は開放型自由選択制であったが系列選択制を導入。系列の縛りを導入。(自由選択制は進路指導に問題が生じたため。)また普通科と専門科が渾然一体化となった、系列運営委員会を立ち上げ、系列のカリキュラムを編成し、系列にかかわる問題を協議した。さらに前後期制を廃止し3学期制へ戻した。

依然、学力の低下が課題であったため、一般入試ではなくAO・推薦入試をめざして基礎学力を付ける時間を作る。まず1年次に基礎学力向上の時間として英、数、国等の補習、

及び基礎学力検定(1年次3回・3回のテストの平均60点で合格・推薦の校内選考時に重要な資料となる。)を実施した。2・3年次では進路研究の時間を設け、進路に役立つ資格取得のための時間に充てる。2年3学期から卒業研究に取り組ませる。土曜特別講座として1、2年1学期は英、数、国の力不足を補い、2学期からは考え方を学ぶ講座(ディスカッション)を設ける。

大学進学者数が年々増え、中でもAO・推薦入試合格者はかなりの数となった。

《卒業研究について》

卒業研究は学校指定必修科目として2単位を設け、卒業評定も付け、卒業するためには必修得の科目とした。卒業研究の完成度がAO入試の成否を決めるので、卒業研究のレベルアップに加え、教員の指導力・指導計画の充実をさせた。

研究課題の内容は、系列学習の集大成であるため系列学習にかかわるものにさせ、できるだけ進路選択に関連させる。それをもってAO・推薦にもっていきける持ちネタにできるように指導。それに伴い時間割を変更。特に3年1学期は集中的に時間がとれるようにし、2学期は主に発表の練習に当てた。研究テーマ設定は系列学習に導き出されるテーマ設定とし、できれば進路選択にかかわる方が望ましいものとした。生徒にとって分かりやすいように、教員がガイダンスの際に先輩たちの例や望ましいモデルを提示した。教師は必修科目なので評定もきちんと付けた。年間指導計画は、2年生の10月に第1回目ガイダンス、12月に研究テーマ決定、1月に研究計画書提出、3月に第1回中間発表、3年生では5月に第2回目の中間発表、6月に中間報告書提出、夏休み各自で研究を完成させ、9月に完成版提出、系列内発表、系列の代表選考、11月に学年発表、学年代表選考、2月に校内発表会を行った。

《まとめ》

第一次学校改革では「自ら考え、自ら学び」を掲げてきたが、生徒は常に受け身であったためその点を反省し、綿密な計画を立て生徒に暇を与えない、常に課題を作る、提出物を作る、準備の必要なイベントをさせる等、わざと忙しい状況に変更した。教師は生徒と共に学び、積極的に一緒に考え、研究の方向性をアドバイスするようにさせた。さらに発表する側の緊張感への慣れ、見る側の意欲をかきたてるという目的で下級生に参観させた。

「産業社会と人間」がキャリア教育のモデルとなり、また知識注入型教育を改善し、課題解決型学習を生んだという意味で総合学科が果たした功績は大きい。しかしまだ総合学科の認識が薄いのも事実。総合学科が育成するのは、自らを見つめ自らの人生を設計し生き方と進路を主体的に選択する能力である。

日本経団連報告によると、採用選考に当たって重視するのは、①コミュニケーション能力、②チャレンジ精神、③協調性である。これらに対して総合学科は十分対応していると思われる。

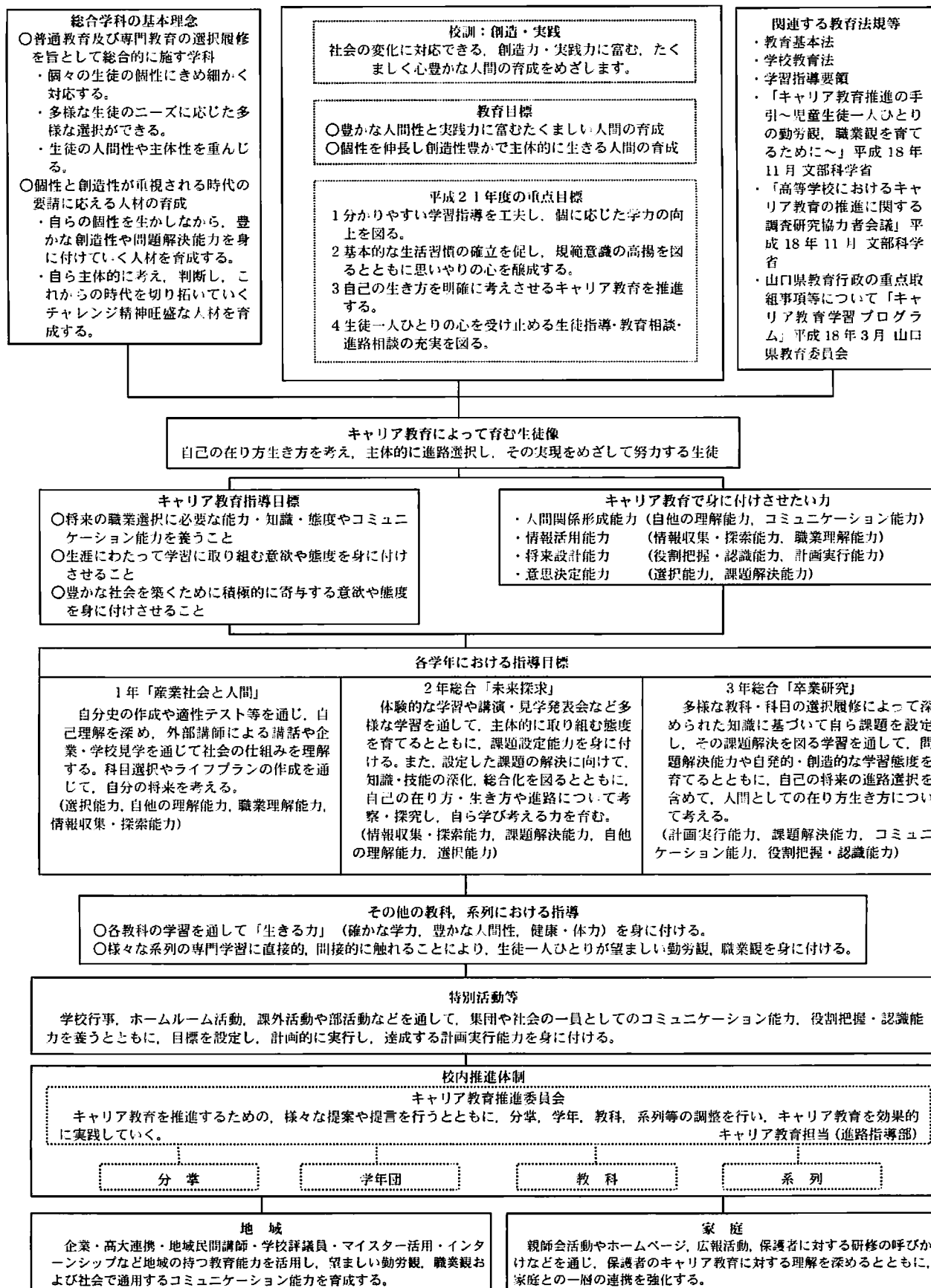
今後、個性的で魅力的な特色のある総合学科の時代が来ると思われる。また高大連携という言葉があるように、高(高校)専(専門学校)連携という言葉があってもいいのではないかと考える。同系列の専門学校と5年連携教育、つまり総合学科の2、3年で専門分野の基礎入門分野の教育をし、専門学校の2年間で高度職業能力の育成をめざすというもの。

総合学科は地域に愛される高校、地域住民向け生涯学習機関として地域に貢献している高校をめざすべきと考える。



講演風景

平成21年度山口県立宇部西高等学校キャリア教育全体計画



「産業社会と人間」「未来探求」「卒業研究」年間指導計画

1年「産業社会と人間」

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
活動内容	自分の適性を知るための活動に取り組み、職業や総合学科についての基礎知識を身に付ける。			夏休み課題研究	企業見学・学校見学に備える。		企業・学校見学	自分の将来を考え、科目を決定する。		科目選択決定	ライフプランの作成を行うとともに、表現力を身に付ける。		ライフプラン発表会

2年「未来探求」

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活動内容	自分を見つめ直すとともに、社会・職業・学校のことについて理解を深める。			夏休み調査体験学習	科目選択を再検討し表現力を磨く。		卒業研究テーマを検討する中で、3年次に取り組むべき課題を発見し、進路決定に備える。			卒業研究テーマ決定	希望進路を明確にし3年次に備える。	

3年「卒業研究」

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
活動内容	研究の方法を学び、資料を収集する。		実験・実習等に取り組み、調査結果をまとめる。			（プレ発表）	最終報告に向けて研究をまとめる。西高祭で発表する。		卒業研究発表会	
	研究を進めるために必要な社会常識について学ぶ。		プレ発表に向けて表現力の向上に取り組む。							
	専門学校講座で専門的知識を身に付ける。		幅広い社会常識を身に付け研究を深める。							